

日銀の視点

四国、関西、名古屋、

水戸と、転勤により国内各地を渡り歩いていますが、その土地の歴史・文化に触れるために、休日には、地域に残る古い街並みを散策することになっています。

先日もひな祭りで有名な真壁を訪れました。江戸時代から昭和初期に建てられた見世蔵、土蔵、長屋門などが立ち並び、登録有形文化財の建物だけでも約100棟を数えるそうです。ひな祭りシーズンには、今や10万人を超える観光客を迎える

日銀水戸事務所長 鶴屋 洋一郎

観光地となっています。

ひな飾りの場所を示す地図を手に、大勢の観光客が市内を巡っています

が、土産物の袋を掲げている人は意外に少なく、商業的に成功しているかどうかは微妙です。中心部の商店街で、ひな飾り

トはなく、単に煩わしいだけとの考え方もあるかもしれません。

おもてなしで魅力向上

そうしたビジネスや損得といったことは関係なく、家々に伝わるおひなさまを飾ることで、寒い季節に訪れたお客さんをもてなそう、という地

つ、見どころを案内してくれるボランティアガイドの方々と共に、商店や一般家庭を訪れると、初対面のご主人、奥さまとも打ち解けて自然と話が弾みます。真壁の成り立ち、石材業による繁栄の歴史、また日銀本店旧館

域の方々の街おこしにかけると、真壁石が使われていることなど、興味深くお話を伺いました。

歴史的街並みが保存されている地域は、日本各地にあります。建物の保存状況、集積度などで見て、真壁は、これら保存

スの価値ある地域です。でも、それだけなら、一度訪れて、満足しておしまいです。真壁の場合、それに加えて、地元の方々の交流でより深く歴史・文化を知り、おもてなしの温かい心に触れることができるので、「もう一度訪れてみたい」という気持ちになります。

観光振興による街おこしに、ビジネスという側面は無視できませんが、地域の方々のおもてなしの心によるボランティア活動が、街の魅力を高めます。「人を通して街を知る」、今後も、そうした旅を続けていきたいと思えます。

の展示、一般開放をしている店舗が多いですが、販売の内容次第では、売上げが伸びるとは限りません。一般のご家庭で、庭にある蔵を開放しているお宅もありますが、観光客を敷地内に呼び込むことに、特段何のメリッ

真壁の歴史を説明しつつ、地域の中でもトップクラ

（第2土曜日掲載）